



株式会社田野井製作所

〔創業年〕1923年 〔従業員数〕150名

〔事業内容〕ねじ切り工具、タップ、ダイス等の製造販売

〔請求書処理枚数(月間)〕約300枚

100年企業の経理改革への挑戦 経理の負担を半分にした業務効率化

100年以上の歴史を持つ老舗タップ・ダイス専門メーカーの田野井製作所。
社長の代替わりを機に、魅力的な工場へと変貌を遂げた一方、経理業務は旧態依然としていました。
Bill Oneの導入によってもたらされた業務の変化、効果についてお話を伺いました。



【お話を伺った方】
経営管理部 経営管理課
田野井 詠美 氏

2002年に株式会社田野井製作所へ入社。工場で現場を経験した後、生産管理部門を経て管理部門へ異動。会社全体の決算を統括しながらも、インボイス制度への対応や新しいシステムの活用を推進している。

導入の効果



請求書の処理にかかっていた
業務工数を約70%削減



支払い漏れや
二重支払いを防止



経費精算における
経理・現場の工数を削減

導入前の課題

- 紙の請求書の郵送に時間がかかっており、郵送忘れによる支払い漏れも起こっていた
- 請求書の振込先名称や金額の入力時の間違いにより、支払いミスが起こっていた
- 経費精算における入力データと領収書原本とのチェックに手間がかかっていた

“請求書は紙で処理することが当たり前。
法対応によって業務が増えるのも仕方がないと思っていました”

—— 事業内容について教えてください。

当社は2023年に創業100周年を迎えた、タップやダイスの専門メーカーです。タップとダイスは、どちらもネジを作るために使用する工具です。当社の商品のうち8割は自動車業界に納品しています。本社のある埼玉県と宮城県に工場を構え、全国4カ所に営業拠点を持っています。私が所属する経営管理部は、経営判断に有益な情報の発信と、従業員が働きやすい環境を作ることがミッションです。私を含めた2名で経理業務を担当しています。

—— Bill Oneの導入前は、どんな課題を抱えていましたか。

以前の当社は、いわゆる「3K(汚い、暗い、危険)」と言われるような昔ながらの町工場で、経営や日々の業務についても、長年、ベテランの勘や経験に頼っていました。しかし、2013年に5代目社長の田野井優美が就任してからは、働きやすさを重視し、働きがいのある職場を目指してさまざまな改革に取り組んできました。特に力を入れたのが、工場の業務改善やデジタル化でした。さまざまな取り組みが功を奏し、今では工場見学ツアーを実施するなど、全国からお客様が見学に訪れる、素晴らしい工場に生まれ変わっています。

その一方で、請求書の処理や経費精算といった経理業務に目を向けてみれば、依然として紙の書類を取り扱っており、アナログな作業が多く残ったまま。毎月の経理業務に膨大な工数がかかっていました。Bill Oneの導入以前に抱えていた経理業務の課題は、「請求書の処理」に関するものと、「経費精算」に関するものに分けられます。

まず請求書の処理についてですが、当社は埼玉県、宮城

県、広島県、愛知県に4つの拠点を置いていて、請求書はそれぞれの拠点で受け取っていました。各担当者が請求書の内容を確認した後、本社宛てに郵送されます。郵送することを忘れてしまい、支払いの遅延が発生してしまったこともあり。本社では、各拠点から送られてきた請求書をスキャンしてPDF化していましたが、請求書のフォーマットが取引先によってバラバラなため、一括でスキャンできず、複合機と格闘しながら作業していました。請求書によって支払期日が異なるため、仕分けするだけでも手間でした。おまけに、振込先や振込金額をシステムに手入力していたことから、入力間違いによる支払いミスが発生するようなこともありました。

続いて、経費精算についてですが、当社では仮払い精算と立替経費精算の2パターンがあり、どちらも経理だけでなく現場にも大きな業務負担がかかっていたことが課題でした。

仮払い精算では、現場の担当者は出張前に見込み金額を事前に申請し、承認を得なければなりません。経理はその金額を個々の社員の銀行口座に振り込む作業が発生します。

立替経費精算では、現場は経費が発生するたびに専用システムに経費を入力する必要がありました。海外出張が多い社員だと、個人で立て替える金額が大きくなることも負担でした。経理はシステムに入力された情報と紙の領収書を目視で突合しなければならず、手間がかかっていました。

ただ、「毎月大変だな」という思いはありながらも、当時はそれが当たり前だと思っていて、正直課題だという認識もありませんでした。紙の処理は必須で、法対応のために業務工数が増えるのも仕方ないことだと諦めていたんです。

“請求書の処理にかかる工数を約70%削減。 経費精算においても、経理と現場両方の負担を軽減できました”

—— Bill One を選んだ決め手は何でしたか。

決め手は大きく二つありました。一つは、請求書の処理だけでなく、経費精算もまとめて効率化できること。Bill One は、請求書の処理に関する課題を解決できることに加えて、「Bill One ビジネスカード」という法人カードも利用できることを知りました。このカードを利用すれば、社員による経費の立替払いをなくことができ、申請も非常に簡略化できます。経費精算の効率化は、経理だけでなく各拠点の現場社員を含めて全社的に影響が及ぶため、請求書の処理と併せて改革できるなら投資に十分見合う効果を上げられそうだと感じました。

もう一つは、比較した類似サービスの中で、導入までのサポートが最もきめ細やかで丁寧だったことです。導入前は本当に軌道に乗せられるかどうか不安もあったのですが、Bill One のカスタマーサクセスの担当者の方からは「一緒に進めていきましょう」と心強い言葉をかけていただきました。導入後も週に1回以上のミーティングを行い、社内向けの説明資料の作成をサポートしてもらったり、各拠点からの質問に丁寧に対応してもらったりと、本当にありがたかったですね。

—— 導入後、どのような効果が得られましたか。

まず定量的な効果として挙げられるのは、請求書の処理にかかっていた業務工数を約70%削減できたことです。紙の請求書を受け取る必要がなくなったおかげで、各拠点で受領した請求書を本社に郵送する業務や、本社で請求書をスキャンしてPDF化する対応がなくなりました。支払いにかかる時間も、以前は書類のチェックから支払い完了まで半日程度かかっていましたが、1時間未満でできるまでに短縮できています。

経費精算においては、現場担当者がBill One ビジネスカードを利用することで、個人で経費を立て替える必要がなくなりました。仮払いの申請や、銀行口座への振り込みも必要なくなりました。経費が発生したら、カードを使った本人のスマートフォンからアップロードされた領収書とカード利用明細の金額が自動で突合されるため、経理の確認作業がとて楽になりました。Bill One の導入で、請求書の処理と経費精算における経理の負担は半分以上削減できたと感じています。

現場の社員も、後日改めて経費精算申請システムに入力したり、紙に領収書の原本を貼って提出したりする作業がなくなり、現場にかかる業務工数は約90%の削減を達成しました。

請求書の処理と経費精算における定量的な効果

請求書の処理

業務工数

約**70%**削減

支払い業務

半日 → **1時間未満**に

経費精算

経理の業務工数を

約**50%**削減

現場の業務工数を

約**90%**削減

“ 定量的・定性的な効果が得られたことで、費用対効果に満足しています。 業務効率化によって空いた時間で取り組めることが増えました ”

—— 働き方にも変化などありましたか。

請求書の処理をするスピードが上がったことに加えて、承認の進捗や支払いの実施有無など、それぞれの請求書のステータスも Bill One で一元管理できるので、支払い遅延が発生するリスクを大幅に軽減できました。手入力の間違いによって発生していた支払いミスなどもなくなりました。電子帳簿保存法やインボイス制度には、Bill One が自動で対応してくれる点も安心でした。

また、Bill One の導入によって、それまで請求書の処理や経費精算にかかっていた時間を大きく削減できたことから、今までやりたくても忙しくてなかなか手を付けられなかった活動に空いた時間を充てることができるようになりました。例えば、新たな人材を採用するための活動や、SNS での発信を戦略的に行うことなどです。

最近、当社ではインドネシアから技能実習生の受け入れを始めました。彼らの指導や育成のためには当然時間も手間もかかります。新たに社員を採用しなければならないのではと考えていましたが、請求書の処理と経費精算の業務を削減できたことで、現在のところ、その必要なく対応できています。

—— 費用対効果の面では納得されていますか。

当社は新たな取り組みを行う際、非常にシビアに効果測定をしながら業務改善を行っている会社です。ですから、Bill One を導入した当時は、「投資に見合う効果が上がらなければ、私は会社にはいられなくなるかもしれない」という不安がありました。しかし、結果的に請求書の処理、経費精算の両方において、期待以上の成果を出すことができ、Bill One の費用対効果にも満足しています。

導入後に現場担当者を対象に行ったアンケートでも、「請求書の処理や経費精算のために出社する必要がなくなった」、「紙の書類を郵送でやりとりする手間がなくなった」などと、業務が楽になったことを喜ぶ声をたくさんもらいました。経費精算に関しては、8 割以上の社員が、「Bill One ビジネスカードの継続的な利用を希望する」と回答してくれています。経理だけでなく、現場の負担を軽減できたことは本当に大きな成果で、「Bill One を導入して良かった」と心から思えるようになりました。

もし以前の当社と同じように、経理業務を改善したくて悩んでいる企業がいらっしゃれば、ぜひ導入をおすすめします。

Bill One の導入で得られた定性的な効果



請求書の処理をする
スピードが上がり、
支払い遅延のリスクを低減



入力間違いがなくなり
支払いミスのリスクを
低減



採用活動や
SNS での発信などに
集中して取り組める



採用した
技能実習生の指導に
時間を充てられる

請求書受領から、月次決算を加速する

Bill One

powered by Sansan

Bill One は、Sansan 株式会社が提供するインボイス管理サービスです。

さまざまな形式・方法で届く請求書をオンラインで受け取り、

請求書業務を効率化することで、企業経営における意思決定のスピードを向上させます。

請求書を発行する企業



郵送



メール添付



アップロード

Bill One

ワンストップ受領

請求書の発行元には、これまで通りに請求書を送ってもらうだけ。
紙の請求書は代理で受け取り、面倒なスキャンも行います。

99.9%*の精度でデータ化

AI、OCR、入力オペレーターが、99.9%という高い精度で請求書をデータ化。
請求書の受領やデータ化の完了を担当者にメールで通知します。

クラウド上で一元管理

データ化された請求書は、専用のデータベースで一元管理できます。
検索が簡単になり、他のシステムと連携させて活用することもできます。

Bill One の契約企業



* Sansan 株式会社が規定する条件を満たした場合のデータ化精度

3つのメリット



あらゆる請求書を
オンラインで受け取れる



法改正に対応した
業務フローを構築できる



経理部門に限らず
組織全体の生産性が上がる

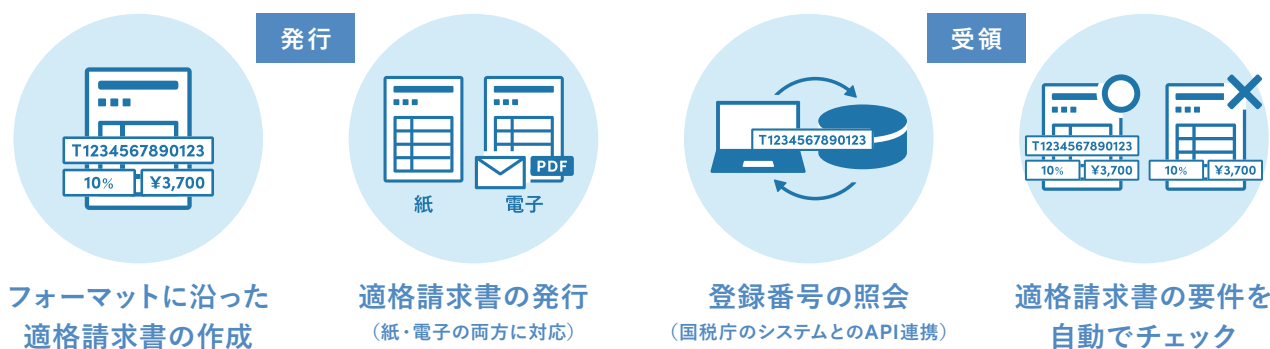
請求書に関する法改正には、Bill Oneが対応します。

2022年1月1日に改正が施行された電子帳簿保存法や、2023年10月1日に開始されたインボイス制度など、
Bill Oneを導入することで、法制度に対応した体制を構築することができます。

インボイス制度

2023年10月1日から消費税の仕入税額控除の方式としてインボイス制度が開始されました。
適格請求書(インボイス)は、税務署長に申請し、登録された課税事業者のみが発行できます。
請求書の受領企業が仕入税額控除を受けるためには、インボイス制度への対応が必要になります。

適格請求書の受領だけでなく、発行にも対応しています



電子帳簿保存法

電子帳簿保存法(電帳法)により、電子請求書は電子保存しなければならなくなりました*。
紙の請求書にも対応しながら、電子請求書を取り扱う必要があるため、
コストをかけずに混在する紙と電子の請求書を一元管理する方法が求められています。

電帳法で定められた保存要件を満たして、請求書を電子保存します



* 2022年1月から2023年12月31日までの間において電子取引によって授受した電子データ(請求書を含む)を保存要件に従って保存することができなかったことについて、やむを得ない事情があると認められ、かつ、その電子データについて出力書面(整然とした形式・明瞭な状態に限る)を提示または提出できる場合には、引き続き保存期間終了まで出力した書面による保存が可能となります(令和4年度税制改正)。

* 2024年1月1日以降に授受した請求書を保存要件に従って保存することができなかったことについて、相当の理由があると認められ、かつ、その請求書について電磁的記録のダウンロードの求め及び当該電磁的記録の出力書面(整然とした形式・明瞭な状態に限る)を提示または提出できる場合には、保存要件を不要として、電子データの保存が可能となります(令和5年度税制改正)。

Bill One
powered by Sansan

お問い合わせ | デモ依頼やお見積りについては、お気軽にお問い合わせください

bill-one@sansan.com
<https://bill-one.com>

0800-100-9933

Sansan株式会社 [本社] 〒150-6228 東京都渋谷区桜丘町1-1 渋谷サクラステージ28F